

令和4年第1回定例市会2月議会(2月17日～3月29日)が開かれました。 予算特別委員会が設置され、私は第3分科会で次の2局の審査で発言しました。

こども家庭局(3月1日火)で5項目にわたり質疑いたしました。質疑のやり取りは要点のみ。

- ①ママフレのリニューアルについて ②区役所における子育て支援連携について
- ③こべっころんどの移転について ④地域子育て支援拠点事業について
- ⑤ 新生児聴覚検査に対する医療機関の支援

1. ママフレのリニューアルについて

補足 ●ママフレのリニューアルは、令和5年を予定。尚、スマートシティポータルログイン機能を備えたプッシュ型情報提供スマートこうべ(令和4年3月28日に開設運用スタート予定)の機能と連携を予定。

平野 今回令和4年度の予算にママフレリニューアルが予算計上されている。新しくなるママフレについてスマートシティポータルサイトのプッシュ型情報のスマートこうべと連携することが前提になっているか、またその全容について伺いたい。

中村子供未来担当局長 スマートシティポータルのスマート神戸は今年度3月下旬に開設運用スタートする予定。ログイン機能を備えてプッシュ型情報提供していくことも検討している。この機能と、ママフレのサイトと連携していくために、それぞれに掲載していく情報のコンテンツの元となるデータを整備をしていき、ログインシステムの中で情報が引き出せる形でプログラムを入れ、プログラムを適用した形でデータ整備をしていくことが必要。スマートシティ神戸との連携が非常に重要。使い勝手が上がるようにやっていきたい。

平野 リニューアルにおいての子育て情報のデータを区役所と連携していただきたい。

中村担当局長 情報の濃淡、情報のバリエーションも異なる状況の区の方と話をしながらきちんと進めていけるように努めていきたい。アンケートも踏まえて見直し、閲覧される方の端末によって見やすさを工夫し、SNSも情報発信で取り組んでいきたい。

2. 区役所における子育て支援について

平野 今年の4月から区役所のこども家庭支援課と健康福祉課が一緒になる。こども家庭局として区役所における子育て支援をどのように考えているのか。

山村こども家庭局長 令和4年の区役所の組織改正で健康福祉課とこども家庭支援課が一つになり、保健福祉課という形で複雑多様化するニーズに連携して対応していく。保健福祉課が区役所の中で子育て支援の総括的な関係にある。各課が分担し連携し、区役所全体として支援を行っている状態で、子供家庭局は各事業ごとにある各区役所ともしっかり連携をしている。今後も各区役所ともしっかり連携しながら、神戸市全体として子育て支援をしっかりやっていきたい。



平野 区役所における子育て支援情報の発信についてもっともっと深くこども家庭局が連携すべきだと考えるがいかがか。

中山副局長 各区においてかなりばらつきがある現状は認識をしている。やはりこの状態は市全体の子育て支援という観点から課題と感じている。改めて、市全体の広報を統括している広報戦略部、区役所と連携し、効果的な情報発信に努めていきたい。

3. こべっころんど移転について(紙面の都合上一部割愛します。)

【こべっころんどの活用小学校との連携について】

平野 こべっころんどの近隣の小学校では、ブルーカーボンの取り組みとして、あさり、アマモ、真珠貝の育成授業や環境学習が行われており、この取り組みを他の小学校にも広げたいので、新しいこべっころんどの300平米あるホールを活用し環境授業に利用するという観点でも非常に有意義と考えるがいかがか。

山村局長 地域の小学校との連携は、こべっころんどが担うべき業務。ホールや研修室も用意しており、このような施設を環境学習を実施する場所として、ご利用いただきたい。指定管理者と小学校が連携しそのような事業を実施することについても我々としては積極的に対応をしていきたい。

【こべっころんど近隣マップの配布について】

平野 こべっころんどの利用者が近隣の店舗を利用してもらうためにこべっころんどで地域団体が作成したガイドマップなどの配布が考えられないか。

八乙女副局長 地域連携であったり、地域活性化のためにこれからの指定管理者が取り組むということは非常に重要。そのため地域団体等が作成したガイドマップなどを積極的に配布して、協力をしていくことで考えていきたい。

4. 地域子育て支援事業について(紙面の都合上割愛します。)

5. 新生児聴覚検査による医療機関の支援(紙面の都合上割愛します。)

教育委員会(3月4日金)で3項目にわたり質疑いたしました。質疑のやり取りは要点のみ。

- ①兵庫運河における環境授業の浜山小学校以外への小学校への展開
- ②学校での内科検診時の上半身脱衣の方針見直しもしくは、柔軟な対応について
- ③イエナプラン教育について

1. 兵庫運河における環境授業の浜山小学校以外への小学校への展開

平野 兵庫運河でのアサリ、アマモの育成実証実験で浜山小学校の児童生徒と一緒にやっている取り組みは、環境面だけでなく教育面からも非常に有意義なものと考えます。教育委員会として浜山小学校の活動についてどのように評価されているのか。

内藤教育長 浜山小学校は海などの生き物を見つけ、兵庫運河を再生するプロジェクトを題材としてアマモの育成等の環境学習、兵庫漁協のご協力のもと漁師の願いを知って自分たちができることを考える環境学習を子供たち自身が環境問題を自分ごととして捉え、そして主体的に良い取り組み学習活動となっている。また地域の人々、関係機関の方々と触れ合うことにより、兵庫運河や生き物を大切にしたい気持ちが子供たちに芽生え、子供たちの育成に繋がる取り組みであると感じており、大変意義があるものと評価している。

平野 今まさに神戸が取り組まなければならない脱炭素、カーボンニュートラルの大変重要な事柄であるため、神戸市内の他の小学校にも展開していくべきではないか。

松本強化指導担当部長 各学校は地域の環境や学校状況に応じ適切に学習の題材を設定しており、浜山小学校の先進的な取り組みを、まずは同一区内の小学校に紹介するとともに、このように学校と連携していただける環境授業や場所等も紹介環境の学習の支援、しっかりと努めていきたい。

2. 学校での内科検診時の上半身脱衣の件について

平野 神戸市では原則上半身脱衣ということですが、他都市では下着の着用を認



めるところもある。ただ脊柱の側弯、背骨の検査の問題であったり、またその側弯によって過去の裁判があったということも聞いている。虐待のサインだったり皮膚疾患の確認のためにと医師会の意見は一定理解はできるが、プライバシー保護や児童生徒の感情面を考慮いただき、方針を見直し、もしくは対応方法を柔軟にすることができないのか。

長谷川事務局長 我々神戸市としても可能な限り児童生徒の心情に配慮することがやはり重要だと考えており、今後、例えば薄手の肌着を着たまの状態で肌着を繰り上げなくても、聴診器を当てやすいように、児童生徒本人が工夫して、先生の前で隙間あける、背中を見る際には、養護教諭が後ろ側だけ肌着をめくって正確な検診の実施を担保しながら、児童生徒の診療にも配慮をしていくことができないか、具体的にこれから検討していきたいと考えている。いずれにしても児童生徒や保護者の皆さんには、検診の趣旨、実施方法について、引き続き、丁寧に周知、説明をさせていただきたいと考えている。

平野 教育委員会としては前向きな対応ということだが、医師会との調整で、そこは論破できるか。前向きに進めるという自信はあるか。

長谷川事務局長 やはり医師会の先生方の不安としては、正確な診療ができるかどうかということですので、やはりそこは担保していく必要があると思う。子供たちの心、思春期の子供たちの思いもよくわかる。見ず知らずの方に見られるというあの気持ち。もうよくわかるのでそういったところ我々が間に立って、しっかりと説明をしていきたい。

3. イエナプラン教育について(紙面の都合上割愛します。)

神戸市議員平野達司(たつじ)事務所
神戸市兵庫区東山町2丁目8-61 マルシン市場2F
TEL:078-531-8780 FAX:078-531-5301
メールアドレス:th.tatsuji.hirano@gmail.com



平野たつじ HP



平野たつじ Facebook
神戸市の情報をお伝えいたします。

神戸市会の
本議会、委員会を
インターネットにて
閲覧できます。



神戸市会